

## 私のすすめるこの1冊

小谷 裕実(発達障害学科 教授)

### 『ケーキの切れない非行少年たち』

宮口幸治 (著)

将来、学校の先生になりたい人は、一度読んでおかれることをお勧めします。あなたが小学4年生30名学級の担任になる、としましょう。生徒たちには、知的な遅れは原則ありません。しかし、30名が4年生の教科書をスラスラと理解できる力を備えているわけではありません。子どもの発達の個人差は大きく、学力でいうと小学1年生から中学3年生の生徒からなる集団だということを、忘れてはいけません。担任の言葉の意味を解さない生徒や、授業が分りきってつまらないと感じる生徒がいます。加えて、養育が困難な家庭から通ってくる子、本人にそぐわない過度な期待をかけられている子、発達障害のある子、外国にルーツのある子など、背景にさまざまな事情を抱えている子どもたちも少なからず存在します。これが学校現場です。このような子どもたちが気づかれず、理解されず、適切な対応がとられなかった結果、悲しい末路が待っています。

本書の著者は、医療少年院に6年、女子少年院に1年法務技官として勤務した児童精神科医です。非行少年たちは、窃盗・恐喝・暴行・傷害、放火など、ありとあらゆる犯罪を行って入院しているのですが、著者が衝撃を受けたのは、「簡単な足し算や引き算ができない、漢字が読めない、といった少年が大勢いたこと」であり、「見る力、聞く力、見えないものを想像する力がとても弱く、(中略)勉強が苦手というだけでなく、話を聞き間違えたり、対人関係で失敗

したり、イジメに遭ったりしていた」という事実でした。非行の更生のためには自己洞察や内省が必要ですが、「反省以前の問題」を抱えている少年たちが少なくないということです。また、家庭の問題も大きく、学校に相談したり、病院に連れていくことができる、安定した家庭環境を提供できない保護者の課題も挙げられています。

タイトルの「ケーキの切れない非行少年」は、著者が紙に書いた○をケーキに見立てて3等分する、という問題を解くことができませんでした。しかし問題はそこにはありません。「学校ではその生きにくさが気づかれず特別な配慮がなされてこなかったこと、そして不適応を起こして非行化し、最後に行きついた少年院においても理解されず、非行に対してひたすらに「反省」を強いられていた」事実です。皆さんが教師になり、勉強が苦手な子、友だちとのトラブルが絶えない子、やる気のない不真面目な子、に遭遇したら、ぜひ子どもたちの特性や障害、家庭環境に気づいてください。そして、子どもたちは「辛かった、混乱していたのだ」と共感し(「それでいい」という承認ではなく)、教師が一人で抱え込まず、『チーム学校』で連携して支援に乗り出してください。

子どもにたった一人でも理解者がいることで、子どもたちの未来は変わるに違いありません。そんなメッセージを読み取っていただければ幸いです。



## 第1回教育展の報告

附属図書館の企画展示室で、第1回教育展「大学の授業—教育学編—」が開催されました。期間は2019年11月17日(木)から12月27日(金)の催しでしたが、1400名以上の観覧者があったとのこと。ご来場のみなさまには、改めてお礼申し上げます。

今回の教育展は、昨年度まで附属図書館が主催していた教科書展の後継となる記念すべき第1回であり、また教育資料館の共催という意味でも新しい試みでした。その栄えある第1回を、教育学専攻(教育学コース)の歴史と現在を主題とさせていただき、大変光栄に思います。もともとのコンセプトとして、①「授業で振り返る京教」(大学の歴史とアイデンティティの確認)、②「附属図書館発のFD」(大学教員同士の教育活動の情報交換)、③「高校生に伝えたい大学の学び」(とくに受験生に向けた情報発信)の3つを「めあて」とした「大学の授業—教育学編—」でしたが、おかげさまで多くの観覧者を得て、一定の成果が得られたように思います。

ご来場のみなさまの興味関心を正確に推し量るのは難しいところですが、授業の一環として教育展に訪れた教育学専攻の学生たちには、とくに、京都学芸大学附属京都小学校・中学校(現京都教育大学附属京都小中学校)の資料が興味深かったようです。展示したのは1950年代の生活カリキュラムの資料でしたが、当時の小学生や中学生の学びがいかなるものであったのか、興味津々のようでした。教育学科の歴代教員のうちには、附属京都小学校の校長を務めた人がいるほか、いくつかの共同研究を積み重ねてきたという歴史があります。そのような附属学校との連携の歴史と伝統を紹介するということも、企画の意図するところでしたので、学生のみなさんにそこに注目してもらえて、大変嬉しく思います。

2020年度の第2回教育展は、教育資料館主催・附属図書館共催の企画となる予定と聞いております。今年度新しく出発した教育展が、数多く回を重ね、大学や地域のみなさまに愛されていくことを祈念いたします。

神代健彦(教育学科教員)

多くの方が、観覧に来てくださいました。



<関連展示>  
「学生たちによる黒板アート」  
(「教育実践演習」制作課題)  
美術領域専攻  
教育学専攻  
力作揃いでした！



### 企画展示室(北館1階)

<告知>

附属学校子ども作品展

【会期】2月5日(水)～2月12日(水)

第4回「たのしもう日本画展」

【会期】2月14日(金)～4月10日(金)

<報告>

音楽「記譜」課題 作品展示会(山口先生)

1月15日(水)～1月31日(金)

場所：リフレッシュラウンジ通路

京都教育大学  
それはかなう夢講座  
「先生になりたいーそれはかなう夢」は、  
京都教育大学のシンボルフレーズです。

## 第20回を実施しました



1月23日(木)、附属図書館1階のリフレッシュラウンジにて「それはかなう夢講座」が実施されました。第20回は、理学科の梶原裕二先生による「様々な動物と体のつくり」をテーマに、お話しがありました。40名を越

える参加があり、多くの学生や教職員で賑わいました。



主催：「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のためのカリキュラム開発」プロジェクト委員会  
後援：京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館

## ブックハンティングを実施しました！

11月20日、27日に丸善京都本店(京都BAL内)にて、7名の参加者によるブックハンティングを実施しました。選ばれた108冊の本と、参加者の感想および選んだ本の紹介を一緒に館内に展示しています。

熟考の末に選んだ本を、是非手に取って下さい。



## リクエストと投票で話題の本を読もう！

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定する企画です！

2月の投票期間は

1月27日(月)から2月6日(木)

## 日曜開館を実施しています

試験期間前の日曜日(2月2日)を9時から17時まで開館します。試験勉強などにぜひご利用ください！

## 雑誌の製本作業について

1月から3月上旬(予定)まで、西館3階にある和雑誌バックナンバーの一部の雑誌巻号が製本作業のため利用できなくなります。製本後はすべて西館3階(書庫)に並べますので、そちらをご利用ください。※作業中は製本対象リストを図書館ホームページに掲載いたします。

## 児童書コーナー(南館1階)



学生作の  
チラシ



学生による絵本のよみきかせ

- ★2月3日(月) 14:30～  
『おなかのなかに おにがいる』他
- ★2月17日(月) 14:30～  
『ふゆのおるすばん』他



## 今月の絵本カード (学生作)

『ゆきのひのおみやげ』  
作・絵：あんびる やすこ  
出版社：ひさかた  
チャイルド



※児童書コーナーに展示しています。他にも毎月かわいいカードが飾られていますので、ぜひ見に来て下さい。

## 春季休業に伴う長期貸出について

学部生：1月28日(火)～3月27日(金)  
院生・教職員：1月14日(火)～3月13日(金)  
【返却期限日】4月13日(月)まで  
※卒業・修了予定者は3月10日(火)まで

## 教育資料館 まなびの森ミュージアム

<今月の逸品：2・3月展示>

蛍光体(島津製作所製)  
展示場所：図書館

【次回の開館日時】  
※2月は休館です  
<卒業式>  
3月25日(水)  
9:30～12:30



教育資料館 まなびの森ミュージアム  
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

## 論のくちび理のむすび

今回の執筆者 **樋口 とみ子**(教職キャリア高度化センター 准教授)

### 樋口勘次郎の『統合主義新教育法』における統合概念の検討 —明治期の教育課程の構造に着目して—

樋口 とみ子

京都教育大学紀要. 2019, No. 135, pp. 65-80.

私は、大学で「総合的な学習の時間の指導法」に関する授業を担当しています。「総合的な学習の時間」といえば、既存の教科の枠組みにとらわれずに教科等横断的な学習を展開していくことが特徴の一つとなっています。

では、そうした教科等横断的な学習は、日本の近代学校教育制度のなかで、いつごろから、どのようなかたちで始まったのでしょうか。本論文では、総合的な学習の先駆けになったと言われてきた樋口勘次郎の著書『統合主義新教授法』(同文館、1899年)に焦点をあてて、樋口の提起した統合主義の特徴を明らかにすることを目的としました。

樋口は、明治20年代後半～30年代前半に、高等師範学校附属小学校の訓導(教師)として活躍していました。著書『統合主義新教授法』の中では、1896(明治29)年に、樋口が当時の2年生の子どもたちと実施した飛鳥山(あすかやま)遠足の実践記録が掲載されています。遠足という一つの活動を通して、子どもたちは地理や植物、農業など、様々な教科の内容を学んだと記されています。先行研究では、この点が統合主義・活動主義の先駆けになったと高く評価されてきました。

しかしながら、不思議なことに、樋口は統合主義の教授法の具体的な進め方について詳述する際、遠足の実施の仕方に言及するということは一切していません。いったいなぜでしょうか。本論文では、そのなぞを解き明かすことを試みています。歴史をひもといてみると、いま私たちが置かれている位置をより鮮明にしていくこともできるのではないかと考えています。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 135号に掲載されています。

※京都教育大学リポトリ「クエリ(KUERe)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>に掲載予定です。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2020年2月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

2/4-2/10 後期末試験  
2/25-2/26 前期入試

2020年3月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

3/4 館内整理日  
3/12 後期入試  
3/25 卒業式

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版 OPAC

(QRコード)

<https://tosh2.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>



京教図書館 News No.233 (2020年2月号)

発行日:2020年2月3日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp



国立大学法人  
京都教育大学  
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION